

# ふれあい東京

第197号 令和4年4月30日発行  
公益社団法人 東京のあすを創る協会  
〒104-0028  
東京都中央区八重洲  
二丁目11-7 6階  
電話 03(3272)0213



## ◆コロナ禍での地域活動は

オミクロン株による感染第6波が峠を越え、3月21日にはまん延防止等特別措置が全面解除されました。しかし、今後の感染状況がどうなるかが見通せない中では、一定の感染対策は引き続き実施しなければなりません。そうした中で、新型コロナウイルスによる未曾有の世界的な感染拡大が始まって2年余りが経過しましたが、東創協の事業も大きな影響を受けています。主催事業の「都民フォーラム」、「運動推進大会」については、2年続けて中止せざるを得ませんでした。また、各地域の生活学校、生活会議等の団体においても、多くの制約を受ける中で、活動が思うにまかせないとの声も聞いております。今回、コロナ禍の中での活動についてアンケートをお願いしたところ、苦慮する実態が浮き彫りになるとともに様々な工夫で頑張っている様子も伺えました。ここでは、寄せられた主なコメントを掲載いたします。この経験を糧とした、活動の復活を期待します。



東京都多摩市 奈良原公園



東京都多摩市 宝野公園

## ○生活学校

自宅でプレゼント用の折り紙・独楽作りをした／少人数・短時間・時間差・会話を控えるなどを徹底した／緊急事態宣言中は活動を中止した／子ども食堂は弁当配布に切り替えた／上演活動は密となるので中止となった／区の委託事業や学習会は日程を調整して何とか実施できた／地域の子どもの交流ができなかった

## ○生活会議

ウォーキングの行先を都心から郊外に変更した／清掃美化活動実施後の懇談会は中止した／感染防御しつつ公園の美化活動を実施した／会議・定例会は縮小・中止になった／カブト虫捕獲は影響なく実施できた／やごの救出活動はクラス単位での実施となったので負担が倍以上となった／環境フェアは2年連続で中止となった／住民参加のイベントは中止となったが他は計画通り実施した／活動後の食事が中止となった／施設が利用できない間は自宅で布マスクを作り社協に寄付した／10時から16時の活動時間を12時30分から15時までとした／パラリンピックにヒントを得て視覚障害の方にも楽しんでもらえるお手玉を試作した／稲作の作業を組み分けして実施した／野外学習を学年単位からクラス別で実施したが負担が大きかった／河川清掃は緊急事態宣言中は中止とした／環境整備作業は全体から個人・少人数での活動にならざるを得なかった／フリートークの会をオンラインでも実施した／子育て家庭への訪問事業をコロナ禍だからこそ来てほしいとの要望を受けて訪問者の体調管理から気をつけ実施した／部会活動をZOOM上にオンラインコミュニティを作り行った／定例会をオンラインで行うことが多かったが不参加になる会員もいた／自治体主催のイベントの多くが中止となり活動の場が縮小した／子ども食堂を持ち帰り方式に変更して利用者が増え、さらにフードパントリーの切り替えたが利用者はまた増えた／会員の全てが高齢者のため活動を休止せざるを得なかった／定例行事はすべて中止となったがニュースの発行で情報交換した／密になる行事は全て中止にした／コロナ禍

が2年以上に及び高齢会員の退会が目立ってきた／自宅練習を奨励した／会の運営者としてはお先真っ暗／情報発信提供を主に実施した／活動できたのは映画サロンだけ／ウォーキングなど屋外の活動を多くした／毎年100人程度で開催していたイベントを1/3にして開催せざるを得なかった／チャリティ小物市やバスツアーが2年間中止となった／できないことをやめて、できること、やり方を考えて実践した／計画の休止等の連絡の徹底に苦労した／会員の高齢化が進んでおり「うつる・うつす」対策に苦労した／オンライン会議・シンポジウム開催のスキルを獲得できた／河川の清掃活動は回数を減らして実施したが、他地域の下水道からコロナウイルス検出の報道があり中止した／自主的に活動を自粛する人もいたが月2回の活動は実施できた／イベントや体験会は広報の自粛や規模を縮小して実施した／野外活動はできなかった／分散型イベントとオンラインによるAIイベントに参加して情報発信した／ウォーキングを兼ねた地元文化財探訪は好評を得た／人気の映画サロンはほとんど中止となった／目玉のコンサートが会場入場制限で延期となった

### ONPO法人等

感染拡大時にはワークショップが延期または中止となった／ワークショップはオンライン対応でも実施した／日程変更がありスタッフの確保に苦慮した／会議はZOOMを利用して行った／「わらべうたあそび」は三密を避けては成り立たないので「あそびのたまてばこ」に替えて行った／キャンプ等衣食住を伴う集団活動はこの2年間実施できず代わりに日帰りハイクを実施した／コロナ禍だからこそ「生の体験」が必要という思いで緊張感をもって活動した／三密対策として消毒・検温等手間と経費を要した／普段より大きめの会場を確保する必要があり経費がかかった／ZOOMやLINEが会員に早く浸透し交流が図れた／予約していた会場が使用できなくなって中止にしたり別会場を探すなど振り回された／少しでも文化が届くように小さな企画でも実施した

◇令和4年度 事業計画・予算について 承認されました令和4年度の事業計画、予算の概要です。

#### 1 事業計画～運動推進について

令和2年から3年度と続いたコロナ禍により、事業の多くが中止せざるを得ませんでした。令和4年度においても、まだまだ新型コロナウイルス感染の影響が考えられますが、コロナ後を見据えて事業の展開を図ります。令和4年度は、次の項目に重点を置き運動を推進します。

- (1) 安全な・活力あるまちづくり、子育て環境の整備、高齢者の医療・福祉や健康づくり、自然環境の保全・学習、省資源・省エネルギー・資源再利用、食の安全確保など多岐にわたる課題に取り組んでいる団体に対して新たな支援を行う。
- (2) 特に、東京のあすを担う子どもたちへの様々な取り組みに対して、積極的な支援を行う。

- (3) 東京都内全区市町村との連携を図り事業を推進する。

#### 2 予算 令和4年4月1日から令和5年3月31日まで(単位:円)

項目	予算額
経常収益	28,105,000
財産運用益・会費等	439,000
東京都補助金等	27,666,000
経常費用	28,028,000
事業費	25,287,200
管理費	2,740,800
当期経常増減額	77,000
一般正味財産期末残高	15,017,980

### 活動紹介

令和3年9月以降に行われた、様々な団体の活動を紹介します。

#### ◇東京のまちづくり運動の輪を広げる集い 令和3年10月21日(木) 東村山市・サンパルネ 46名参加



当日は、「江戸文化・歴史上の秘話」をテーマに、約1時間半講演を行いました。講演者は、熟年いきいき会の会員でもある、文教学院大学名誉教授の清水春樹さんです。

講演内容は、江戸時代の史実とは異なる事例を取り上げ清水講師が考察したもので、宮本武蔵、江戸町奉行、明暦の大火、江戸時代の食文化、西郷隆盛に関するいずれも目から鱗が落ちるようなお話に、参加者の皆さんも感心しきりで聞き入っていました。江戸時代の市中の息遣いが感じられたひと時でしたが、その江戸も遠く、そのたまたまいとはもはや想像するしかありませんが、その礎の下に今の東京があり、そして未来の東京も築かれていくと思うと感慨深いものがありました。



## 地域活動ルポ

### ◇子ども劇場公演「竜潭譚(りゅうたんたん)」

照明を落した空間にか細い鈴(れい)の音が鳴り響くと、一瞬してそこは非日常の空間に様変わりする。忙しない日常生活から一瞬にして非日常の空間に切り替えてくれることが、芸術の大きな力です。本を読む、音楽を聴く、絵を見る、芝居・映画を見る等々により、束の間、日常の憂さから解放される空間に誘ってくれます。今回、立川子ども劇場からご案内を受け、泉鏡花原作の浄瑠璃×人形×パントマイムによる「竜潭譚」講演を見学させていただきました。この公演は、多摩・立川・八王子・日野の4つの子ども劇場による高学年向けに合同例会として開催されたものであり、パンフレットにはく泉鏡花の耽美的な世界を球体関節人形と常磐津、パントマイムという異色の組合せで表現します。最小限の出演者に絞り無駄な描写をそぎ落としたことで生まれる緊張感、空気が止まったかのような美しさと日本の美をご堪能ください>とあります。泉鏡花の描く耽美的な世界とは何か、球体関節人形とはどういったものか、常磐津はどういうもの、パントマイムが入るのはどういう意図なのか、等々際限なく疑問が広がり、解説が必要になります。否、理屈で考え理解するのは場違いなのかもしれません。虚心坦懐、余計な知識なしに無心となり鈴の響く非日常空間に入り込めば良いのです。それは、大人はなかなかできないが、柔軟な感性を持つ子どもたちならばこそ、より良く味わえるのかもしれません。



### ◇子どもひろば NPO法人市民共同学習プロジェクト



東京都立川市 たかのみち保育園

『いじめのリアル』という本が紹介されている新聞記事を目にしました。そこにはくいじめを防ぐ出前授業を小中学校で20年以上続けるNPO法人の高橋真佐美代表理事が、授業に参加した子どもたち2万人余のアンケートを本にまとめた。いじめられている子には「ひとりじゃない」、大人には「当事者の声に耳を傾けて」と伝えるためだ。>(朝日新聞2022年2月28日)とあります。いじめは今も昔もなくなる永遠に取り組むべき課題であり、様々な取り組みが奏功してやっとこの程度に抑えられていると見なければなりません。高橋さんのような地道な努力があってこそこの現状です。早速連絡をとり、この4月から小学生になる保育園の年長さんたち向けのワークショップを見学させていただきました。様々な場面で見知らぬ人に声をかけられたら、具体的にどう言うって断るのか、やって見せて園児たちにも実演してもらおう。

保育園まではあった送り迎えが無くなる新1年生にとっては、大事なスキルです。何よりも、実際に声に出して断る訓練は役に立つのだろう、と大いに納得させられました。がんばれ、一年生🍎。

## 新着会報

### ○喜多生活学校だより[最終号]

昭和55年に開校した北区の喜多生活学校が令和4年3月、「卒業の会」を開催し、また「令和3年度 喜多生活学校だより最終号」を発行して、その42年の歴史に終止符を打ちました。長年の活動、ありがとうございました



### ○高木町防災まちづくり通信

昭和56年に発行を始めてから41年の長きにわたり発行し続けて、この度第200号が発行されました。日頃より「防災ファミリーひろば」や「災害時行動訓練」と共に防災意識を高めるのに役立っているとされます。



**▽ひとこと** 2年をも超えても、いまだに終焉を迎えることができない新型コロナウイルスによる世界的な感染爆発ですが、そんな中、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻が起きました。21世紀にこのような戦争が、しかも大国ロシアによって引き起こされるとは信じられない思いです。日々、平穏な生活をしてきたウクライナの人々は飛び交うミサイル攻撃に晒され、夥しい戦車群に国土を蹂躪され、逃げまどい、殺戮されている。ただただ驚くばかりです。これが現代のましてや大国のやることなのか。今後、事態がどう展開するのか予想もできない。二度にわたる世界大戦で戦争の愚かしさを学んだはずだが、そんな歴史に学ばず自らの狭い経験で物事を判断している傲慢な為政者がまだいる。どんな教育を受けてきたのか。知識だけでない人類の叡智を子供たちには学んでもらいたい。それは、世界のあす、そして東京のあすを創るために絶対に必要。せめて、一助になることを進めていきたい。(竜)